

平成 29（2017）年度 「住まいとコミュニティづくり活動助成」 中間報告

団体名

NPO法人ライフサポートセンターHAPPY

活動のテーマ

廃墟対策と相続登記の推進による都城活性化プロジェクト

活動の対象地域

宮崎県都城市旧市内

活動地域の概要

都城市の中心に所在する場所でありながら、今はもう住人のいない家屋や空家が点在している状態です。中心市街地でも、アーケード街は空き店舗が軒を並べ、市の政策で多くの補助を出し外部からの出店を支援していますが、制度を使う事業主すらでない状況です。

市内の一部を除いて、住民の高齢化が目立ち独居高齢者も多く、家を承継する者も地元におらず、空屋の数は急激に増えている状況です。

団体設立経緯

2013年、宮崎市で相続相談にのったところ、高齢の方が亡き息子の嫁からとんでもない被害に遭っていることを突き止め、警察も弁護士も解決できない事案ではあったが、当団体の発足人2人が解決し、その方を実の娘の元に戻すことが出来ました。結果、数百万の公金横領と相続財産詐欺を発見することになったのですが、その経験から認知症予防の思いと相続知識の必要性を強く感じ「認知症防止活動」「相続セミナー」をボランティアで始めたのです。

まずは、宮崎市を中心に「相続セミナー」と「シニアライフプランニング」の活動をはじめ、次に、都城市でも活動を始めたところ、都城市役所の方からNPO法人成りのすすめを受け、同志を募ったところ多くの賛同者に恵まれ2015年にNPO法人設立に至りました。

しかし、相続セミナーというと堅苦しくて参加する方も少ないため、今は皆さんが興味深く取り組めるクイズ形式に作り直したり、地元の歌手を前座に迎えたりと工夫を凝らして受け入れていただいています。

NPO法人ライフサポートセンターHAPPY

「廃墟対策と相続登記の推進による都城活性化プロジェクト」

1, エンディングノートの活用による空屋対策の推進

① 相続セミナーの開催

自治公民館・地域の施設において4～9月間に約20回数のセミナー実施

参加者数：約400人

配布エンディングノート数：約400冊

活動写真



<8月1日の松本氏、黒瀬氏の視察後の>

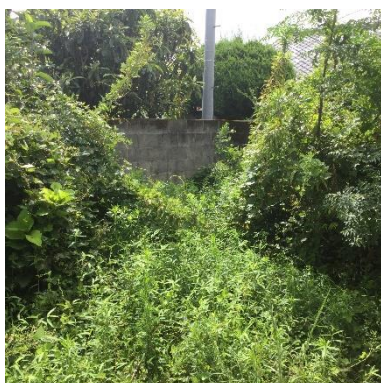
○エンディングノートの「現在住んでいる自宅」についての項目に工夫を凝らすと、本来の『相続登記の推進』がより明確になる。

というご指摘を受け、エンディングノートの改善に取り組みました。

・・・・・・改善後のノート：資料1・・・・・・

② 空屋をDIYにより、賃貸に結びつけるプロジェクト

セミナーなどの活動の中で、参加者の中に「有効活用が図られていない空屋」の持ち主がいることを知り、相談の結果、DIYと賃貸契約までを任せてもらうこととなりました。



家の周りも中も木や草が生い茂っているこの家が・・・・



草ぼうぼうからおしゃれなエクステリアへ



家の中は意外ときれい。



トイレの扉
もおしゃれ
に変身

最後の仕上げは地域の
女性に任せて・・・



ご近所さんの噂を聞いて借り主が早速決まりました。8月22日から始めたDIYですが、9月半ばには借り手が見学に来られ、周囲より安価で契約をさせていただきました。

- 鬱そうとした小森のようになっていた一画が、スッキリこぎれいになり、流れで、後方の住民の方までも庭の手入れをされ、周囲も明るくなりました。
- 高齢故に、空屋にもかかわらず放置せざるを得ない財産（家屋）を掘り起こした結果、持ち主にも借り手にも経済的に優しい賃貸が可能になりました。また、地域の高齢者の活用にもつながり、全て良しウィンウィンの関係が結べました。
- 今後の空屋対策において、地域高齢者の力を仰ぐ、良い例になりました。

最後に

黒瀬氏、松本氏のご指摘の通り、住民自治がしっかりしている地域では、様々なことがおばあちゃんの知恵袋のごとく、難なく事を運ぶ要なのだと感じます。当団の活動も今後、住民自治活動の活性を図る流れの中で進めたいと考えます。

まずは、地域の中で空屋を支え、地元の方々に支援活動をし、住民を呼ぶスキームを作り上げたいと考えます。また、その中核に相続問題を含むシニアからの経済の安定をおくことを大切にしていきます。